



あっという間に12月、クリスマスシーズンですね。10・11月号のカスタネット通信では、12月号への布石として、言語聴覚士2人の絵本に対する思いを書かせていただきました。今月号は満を持して、オギジビ文庫の選書をしてくださった絵本マスター(M)の登場です。言語聴覚士(I)がオギジビ文庫の選書、絵本の役割などについて絵本マスターにお話しをうかがいました。



I : 絵本マスターは某児童書出版社にお勤めで、絵本の普及・推進のお仕事をされているのですよね。お仕事の内容、大事にしていることを教えてください。



M : 幼稚園や保育園などを訪問し、先生や保護者向けに保育や育児の中で絵本が果たせる役割を伝える活動を行っています。絵本は楽しいものであり、その楽しさは絵本を通した大人と子どものコミュニケーションが支えているということをお話しします。集団で同じ絵本を繰り返し読むと、ことばの体験・感情体験なども同じ経験ができるので、会話も遊びもより豊かになります。



I : オギジビ開院にあたり、絵本コーナーを充実させたいという思いがあり、以前から面識があった絵本マスターに選書をお願いしました。来院するとまっすぐ絵本棚に駆け寄りお子さん、お気に入りの本をいつも読んでいるお子さん、仲良く絵本を読む親子など、オギジビ文庫はだいぶ待合室に馴染みました。熱心に絵本を読んでいる大人の方もいらっしゃいます。どのようなコンセプトで選書をされたのでしょうか。

M : 第一に、子どもたちが「面白い！」と感じて、次の絵本を探す時にその気持ちや関心を受け止められる本棚を目指しました。また、読み聞かせは大人と子どもの共同作業ですので、大人にも興味をもってもらうことも意識しました。ロングセラーは大人も一度は目にしたことがあるものが多く、絵本を読んでもらった幸せな記憶を呼び起こすには最適です。

第二に、言語発達に関わる病院の蔵書なので、家庭支援にもなりうるよう、キレイな日本語であること、音やリズムに面白みのあるものを意識して選書しました。ことばの獲得には日常生活でのことばかけが重要です。しかしそれを意識しながら生活することは困難です。そのような時、ことばを選びに選びぬいた絵本を楽しみながら読むことは、家庭内における信頼関係の構築、ことばの発達に役立つのではないかと考えています。

